

て。そ。な。奥。州。仙。臺。に。て。す。な。む。ぐ。り。出。羽。國。に。て。る。り。下。總。に。て。じ。よ。な。甲。斐。に。て。そ。び。な。駿。河。國。沼。津。
邊。に。て。ゑ。び。と。り。加。州。に。て。む。ぐ。り。美。作。及。備。前。に。て。し。よ。に。伊。勢。及。出。雲。肥。州。四。國。に。て。ゑ。や。う。び。或
ん。共。い。ぶ。薩。摩。國。に。て。ひ。す。い。と。稱。す。

かはせみといへるは深山みやまそびと云物あるに對しての名なり、薩州に深山ひすいとよぶ、東國にて深山みやまえやうびん共、或は所によりては水乞鳥と云、又清盛など、異名す。○中關西にて雨乞鳥と稱するも此鳥なるべし、舊事紀古事記日本紀ともに翠鳥モミジヒと有。

〔東雅十七禽鳥〕鷗 ソビ　舊事古事等に、翠鳥讀てソビと云ひしを、日本紀には鷗の字を用ひて讀む事は同じ。○申 ソビの義不詳。今俗にショウビといふは、ソビといふ語の轉せしなり。又カハセミともいふは、ミヤマソビといふ物あるに對していふなり。カハとは川也。ミヤマとは深山也。セミとはソビの轉せしなり。ソビといひセミといふは、轉語也。ソビとは其小しきなるをいふに似たり。古語は下に見えたり。ミヤマソビといふものは、其形ソビに似て大きに、毛冠も大にくしくして、毛羽に白黒斑文あるなり。東國の俗に呼てキヨモリなどいふなり。其故を問ふに、此鳥よく渴して水を好むによりて、清盛といふなりといて、ふさらば古歌に奥山の水にや詳なる事は知らず。

〔老牛餘喘初編上〕鷗 鷗を、神代、卷にソビと訓、和名抄にも曾比、塙囊抄に少微、古事記に蘇邇杼理字鏡に曾爾と有、これみな普通ひて志かいへるなり、方言に、ショニといふは、少微に同じ、また川セミといふ、こは此鳥河のべの杭、あるは木の下枝などにゐて、魚をうかゞひ、また水のうへを飛はしりて、川瀬を見る物なれば、河瀬見といへるなり、ソミもセミの轉りたる也、ソビ、ソニ、ショニも、また普通ひて轉れるなり、背ビラをソビラ、背肉セシをソジ、背面セトモをソトモなどいへるに同じ、志かるに、ソビ、ソミは、蘇邇の訛なりといふ説あるは裏表なり、さては蘇邇はいかに解べきや、さるはソミを心得かねていへるにこそ、古事記には、訛れる詞なしとかたく思へるによりて、中々にまどへるものなり、ソミは訛れるにあらず、正しき語なり、されば蘇邇杼理は、すなはちソミドリ